



第2号  
令和3年  
4月23日発行

# 志高く

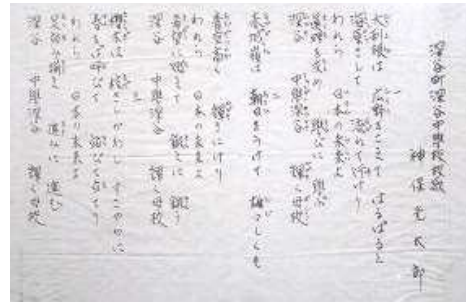
自ら考え学び続ける生徒  
心豊かで思いやりのある生徒  
体を鍛えやり抜く生徒

## おめでとう！深谷中学校 -43回目の開校記念日に深中の伝統と矜持を確かめる-

石川 浩

本日4月23日は深谷中学校の43回目の開校記念日です。

1979年（昭和54年）に旧深谷中学校と旧大寄中学校が統合し、現在の深谷中学校が開校しました。



【旧深谷中学校の校舎・校歌】

旧深谷中学校は現在の城址公園に、旧大寄中学校は現在の北部運動公園にありました。どちらの中学校も、第二次大戦後に整備された教育制度の下でつくられた新制中学校として1947年（昭和22年）にいち早く開校し、それぞれの地域の中学校教育を推進してきた伝統校でした。

【旧大寄中学校の校舎・校歌】



二つの学校が一つになった新しい深谷中学校ですが、1979年4月9日には、市長・議長・教育委員長・教育長の御臨席のもとに、開校式が挙行政され、5月14日には校章も制定されました。その後、校旗の制定や校歌の制定、プールの完成など、開校年度には深谷中学校の基本要素が着々と整いました。開校後しばらくは40学級にも及ぶ県内有数の大規模校で、生徒数は1500名を超えていました。その後、南中学校と上柴中学校への分離や地域の人口動態などの影響もあって、現在は16学級で生徒数506名という学校規模となっています。



深谷中学校の開校から43年。その歳月を如実に表しているのが校地に植えられた木々の大きさ・太さです。開校当時は、航空写真では見えないくらいの大きさであった校庭西側の桜の木々が、20年、30年の歳月の中で大きく太く育ち、43年経った今は校庭から校舎が見えにくくなるほどです。



【開校当時1979年】



【開校20周年 1998年】



【開校40周年 2018年】



【開校35周年 2014年】



【開校40周年 2018年】



【開校43周年 2021年】

43の年輪を重ねて高く太くなった校庭の木々にも、新型コロナウイルスにも負けず、今年度の深中生も深谷中学校の歴史と伝統という幹に、確かな年輪を重ねてくれるはずですよ。

では少し視点を変えて、生徒や学校の様子を見てみましょう。…今とは少し違っていました。



【開校当時の写生会】



【開校10周年頃の体育祭と音楽祭】



【弓道部の練習風景】

私が在学していた頃もそうでしたが、男子は全員坊主頭で通学時には学帽をかぶっていました。体育祭の組体操と音楽祭の一場面。練習を重ねた演技を披露するに当たり、泥水が浮く校庭にためらいもなく俯せる。ジャージや制服は変わっても、こうしたひたむきさが深中生のDNAとして今も引き継がれていることを切に願っています。県内でも珍しい弓道部が深中にはありました。

【昭和から平成に時代が変わった頃の文化祭】



生徒も先生も保護者や地域の方々も…みんなで夢中になって取り組みました。その熱意や意欲は、今の文化発表会をはじめとした深中の三大大行事に取り組む深中生に引き継がれています。

“人が変わり時代が変わっても、学校に、そこで学ぶ生徒に、教える教師に、保護者や地域の方々に、連綿と連なる伝統・矜持が、深谷中学校にはある。”開校記念日はそうしたことを確認する日なのではないかと考えています。